暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

～第一一一号～

大暑（たいしょ）　七月二三日

宇治青年団

内宮前の宇治に青年団があると聞き、さっそく団長の東 良二さんにお目にかかりました。宇治浦田町に生まれ育ち、伊勢市役所にお勤めされています。

「初めて、山田へ毎日通うようになりました」と笑う東さんは三四歳、生粋の宇治の人とお見受けしました。

東さんが宇治青年団の団長となって三年目。団員は中学生から五〇歳代の男女五〇人ほどとのこと。名簿がないため、連絡メールを送る数で把握しているといいます。東さんがこのような地域活動を始めたのは、宇治の浴衣祭りともいわれる「教院さん」が復活した二年目に手伝いをしたのがきっかけ。その後は平成一八年に御木曳行事が始まり、御木曳奉曳団やおはらい町会議などに深く関わるようになり、今は結成されたばかりの御白石奉献団の運営にも携わっています。

地域の青年団は、もともとは江戸時代の若者組がルーツ。若者組は、若者宿に入って一定期間仲間とともに集団生活をし、共同体の一員としての生活に必要な事柄を習得したといいます。青年団は戦後、農村の民主化に伴い、再結成され今に至りますが、近頃は脱農業化が進み、団員は減少気味といいます。

しかし、宇治は祭りを中心に活動をしています。

「垣根は低くやりたい」と、夜、地元の居酒屋に一四、五人が集まっては、祭りの準備の打ち合わせなどをわいわいとしているそうです。東さんは、四〇から五〇代の先輩を「親方」と呼び、相談したりしています。宇治にも若者宿ならぬ、若者の集う場所がちゃんとあるのでした。

今は、夏の宇治神社の会式を控えて、忙しくなってきました。若者宿へ集まる夜も増えます。

文　千種清美

伊勢内宮前 おかげ横丁